

# 能楽師大鼓方・飯嶋六之佐家

Noh Performer  
IJIMA Rokunosuke  
who has been around  
for 10 generations  
since the Edo period.



六代飯嶋佐之六  
立体写真像【近代】

飯嶋六之佐家は加賀宝生の地金沢で藩政期より能楽の大鼓方おおつみを勤める唯一の家です。家芸の歴史は坂尻屋の五代・八郎右衛門と俳人・珈涼かりようの元へ迎えられた佐六から始まります。時は武家の式楽として能楽が隆盛を極めた江戸時代、加賀藩五代藩主・前田綱紀も能楽を手厚く保護、研鑽を積んで認められた町民は町役者として舞台上上がることが許されました。佐六は大鼓を当時国元の重鎮であった小杉次郎三郎に学び町役者となります。安永7年(1778)59歳になった佐六は十代藩主重教しげみちから功績を認められ、扶持とともに「飯嶋」姓を名乗ることが許されます。能を耽溺する藩主の厳しい御用を勤めた佐六へ信頼は厚く、天明3年(1783)には「六之佐」ろくのすけの名も拝領し、初代飯嶋六之佐となりました。

早世した二代に代わり三代を継いだ佐六は、文化5年(1808)に十二代藩主なりなが齊広の意向で石井流から葛野流へ改流を命じられ、江戸の家元・葛野市郎兵衛の所へ修行に出ます。以来、現在の十代六之佐まで葛野流の大鼓方として技芸が継承されます。

四代の時代に明治維新が起こり幕府は解体、藩主重教から賜った名「六之佐」を改名、「佐之六」と名乗ります。さらに廃藩置県によって前田藩主が金沢を去り能役者へ与えられていた扶持も廃止され、生活に苦勞したことは想像に難くありません。家芸を継承してきた家々が上京や廃絶する中で、飯嶋家は佐野吉之助をはじめとする能楽愛好家達と能楽の復興・発展に努めました。八代より「六之佐」へ名を戻し、家芸は現在まで繋がります。

この度は飯嶋家に伝わった資料の受贈とともに、同家の調寿会70回を記念し展覧会を開催します。能楽、金沢の史実と共に歩んできた飯嶋家の歴史を知る一助となれば幸いです。



森蘭齋 筆 能狂言図屏風(半双) [江戸時代(18世紀)]



八代飯嶋六之佐  
ブロンズ像【近代】

全て飯嶋家コレクション

## 関連講座 「大鼓方 飯嶋家歴代の足跡」

9月14日(土)

講師 公立小松大学 国際文化交流学部 教授  
西村 聡氏

[時間] 14:00～15:00  
[会場] 3階研修室  
[定員] 30名  
[参加料] 無料、

ただし要観覧料(一般310円・65歳以上210円)

要予約

## しゃうたい 写謡の会 10月6日(日)

曲目 まつむし とおる 松虫・融  
講師 宝生流シテ方 渡邊 茂人師

[時間] 10:15～11:15(予定)  
[会場] 3階研修室  
[定員] 30名  
[参加料] 1回500円+観覧料  
[持ち物] 筆ペン(または筆・墨・すずり)

静かな時の中、美しい能の謡を書き写し、身心を浄化させてみませんか。当日の午後に催される定例能(於石川県立能楽堂)について、能楽師の解説の後、宝生流謡本の流麗な文字をなぞります。

## Kanazawa Noh Museum 金沢能楽美術館

〒920-0962 金沢市広坂1-2-25 TEL.076-220-2790 FAX.076-220-2791

【アクセス】金沢駅兼六園口(東口)バスターミナルより乗車  
「広坂・21世紀美術館」または「香林坊(アトリオ前)」下車

金沢能楽美術館 <https://www.facebook.com/kanazawa.noh.museum>

<https://www.kanazawa-noh-museum.gr.jp>

